

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

日本選手の大活躍で盛り上がった夏季オリンピック・リオデジャネイロ大会。だが、施設不備や不足・高額な料金など、選手・観客

を迎え入れた宿泊施設の対応の悪い情報は、世界に発信された。それらと共に、治安の酷評でブラジルを旅行先にと考える環境はオリンピック開催時より悪いとの情報も伝わってくる。何のためのオリンピック開催なのか考えてしま

う。

4年後の東京オリンピック成功のために展開される対策に関心を持ってみませんか

4年後は、東京でオリンピック・パラリンピック。だが東京でも、宿泊施設の不足が予想され、対策の一環として「民泊」の情報を聞く機会が増えた。白馬村議会の定例会でも一般質問での質疑と

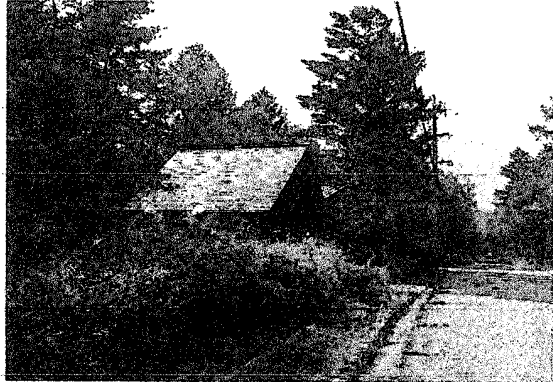
なった。「民泊」とは、フリー百科辞典「ウィキペディア」によると、旅行者が、一般の民家に宿泊することを意味しての日本語の表現で、特に宿泊者が対価を支払う場合と定義している。

て事情を聞くと「パークションレンタル」の制度を利用して、フランス・パリ市内の住宅を業者にか月間賃して、毎年夏はリゾートに来ていると教えてくれる。受け取る賃料で贅沢な食事も可能

した。既に米国生まれの民泊サイト「コアビアーンドビー」には、2万件以上の日本登録物件。Airbnbのレポートでは、日本の経済効果は、5200億円を超えると推計。そして航空業界では規制緩和で格安航空会社

が急成長。アジア圏内は片道1万円の運賃は当たり前前の価格時代。低価格の宿

静寂な別荘地。「民泊」の今後の進展が地域活性にどの様に影響して行くのか注視して行きたい



全性・安心性が担保された規制緩和に対して論議される事を期待したい。(NPO 法人信州地域社会フォーラム 理事・白馬村森上)